

2018年7月24日

ニュースレター7月号

～ミッショントリニティ～

第2回 福音ワークショップ

「福音を生きる」

日時：7月1日（日）13:00～15:00、 場所：信徒会館ヨセフホール

参加人数：133名（分かち合いグループ数：34）

式次第：12:55～13:00 歌の練習「わたしはなりたい」

13:00～13:10 挨拶・流れの説明・歌

13:10～13:20 第1回目のふりかえり（英 隆一朗神父）

13:20～13:30 ワークショップに先立っての分かち合い（男女2人の参加者）

13:30～13:35 グループ分け・分かち合いのルールの説明

13:35～14:05 分かち合い
①自己紹介（名前と洗礼を受けた時期・これから受ける予定など）
②自分にとって、福音を生きるってどういうこと？
③グループで出た話題のうち、一つを選んでキーワードとして書く
(選べなかつたら、複数でも良い) *用紙・ペン・板目を配付

14:05～14:45 各グループで出た話題を共有するための時間

①グループのうち、一人の方が、キーワードとそのココロを説明
②話し終えたら、スタッフに用紙を渡す=>ホワイトボードに貼り出す

14:45～15:00 コメント（英 隆一朗神父神父）

1. 前回のまとめと今回のテーマへのつながり（英 隆一朗神父）

1-1：「あなたにとって福音とは」から「福音を生きる」へ

- 前回をふりかえり今回のテーマへのヒントになるポイントを話しますが、その前にワークショップについて少し説明をします。ワークショップはテーマについて自分で考え、その考えを仲間と分かち合いながらテーマの理解を深めていくための参加体験型グループランニングの技法です。

このワークショップを通してみなさんが、今年のミッション2030の「福音を伝える」というテーマが自分にとってどうしたことなのか仲間と話合い共に理解を深めていくことができますように願っています。

「福音を伝える」ことはモノを売るとか通信販売的なアプローチをすることとは違います。「福音」をどうすればまわりの人たちとお互いに心が響きあうように生きていくことができるかという視点から考え実践していくことです。

- ・前回のワークショップでは「福音の喜び」についてつぎの5つのポイント、①神とのかかわり、②生き方が変わった、③共同体、④社会とのつながり、⑤ミッションについて、分かち合いをしながら理解を深めました：

①神とのかかわり：神とのかかわりを通して喜びを感じた。たとえば神との出会い、苦しい中での支え、神の呼びかけ、神の恵みを感じたことなど。

②生き方が変わった：

自分自身が許された喜び、とらわれや苦しみからの解放、苦しみの内に希望を見出した、他者への関心やおもいやりが生まれてきたことなど。

③共同体：

共に歩む仲間がいる、自分の想いや価値観を支えてくれる仲間や場所がある、居場所がある、支えてくれる人がいることなど。

④社会とのつながり：

多様性のある大きな世界の中でのつながり、経済活動へのかかわり、地球環境・大自然とのエコロジカルなつながりに気づき、育てていくことなど。

⑤使命・ミッション：

自分の使命は何か、そして自分に与えられた使命を果たしていくこと、神とのかかわりの中で自分が変わり、家族、友人、共同体、そして社会の中で使命を果たしていくことなど。

- ・今回のテーマ「福音を生きていく」とは、どう自分が神とのかかわりを深めていくか、つまり自分の生き方を、神と共に他者のためにどう発展させていくかということではないでしょうか。

社会の中のつながりには、家庭、職場、そして教会でのつながりなどがあげられると思いますが、キリスト教的生き方をそれぞれの場でどのように実践していくかが大切です。またそのかかわりの中で、苦しんでいる人たちとどうかかわっていくかを考えしていくことも重要だと思います。

キリスト教的生き方は、決して受洗者の数を増やすことでもありません。マザーテレサの生き方を見れば違うことがよくわかります。第二バチカン公会議以前には信徒は十戒を守って生きること、そして司祭、修道者はキリストに倣い完徳への道を歩むように教えられていました。しかし公会議後の大きな違いは、私たち信徒もキリストと共に聖なる者へ招かれていることです。私たちにはそれぞれ違ったカリスマや賜物が与えられていますから一人ひとりがそのプラスαを理解し、実行していくことだと思います。

2. 二人の参加者による分かち合い

2-1：第1の分かち合い

- ・先週堅信を受け、まだまだわからないこともたくさんあります。まして福音を生きるというテーマで話ができるほどではありません。しかし講座の先輩から何かこの集まりで話をするようにと要請がありましたので、私がいま考えていることを少し分かち合いさせていただきます。
- ・私は、人間はいろいろなところで生きていると思いますが、根本的には神のまなざしのうちに、家族、職場、日本・世界そして地球の順で同心円を描くように存在しているのではないかと思っています。そして私と神、それからそれぞれの場や共同体においてかかわりを大切に、福音に書いてあることを実践していきたいと考えています。もちろんたしかに難しいですが。

- ・先ほど英神父が説明された上述の項目4と5について最近気になっていることがあります。それは世界中で非寛容な状況が広がっていることです。例えば、英国の欧州連合(EU)からの離脱、難民や移民への厳しい対応など、キリスト教の伝統のあるヨーロッパや米国においてすらポピュリズムに迎合するような狭量で不寛容な政策を掲げる政府が誕生しています。ですから私はこの不寛容な状況をしっかりと見つめ、意識し、危機感をもって生きていこうと考えています。

2-2：第2の分かち合い

- ・私がキリスト教の神と出会ったのは大学1年のときで、ほんとうにうしろ髪をぐっと摑まれたように自分の力でなく神の力によって受洗へと導かれました。その後の人生を振りかえってみると、神は何度も私が神から離れ落っこちそうになったときに、いつも私のどこかをつかまえてくださり正しい道に戻してくださっていた気がします。
- ・夫が3年前急逝しました。急に暗闇の中に突き落とされた気がしましたが、そのときも神が私をしっかりと近くで捉えていてくださっていたことを感じました。そして夫はカトリックでしたので当教会のクリプタに入りました。それをきっかけに私もカトリックに改宗す

る決心をしました。最初、わたし自身は少しこの決心に疑問があったのですが、今はむしろ神がそれを許し、私により指導者と教会を与えてくださったと思っています。

- ・この指導者から、「カトリックの信仰で大事なことは聖霊の恵みですよ。頭で考えるではなく胸にじっくりと染み込ませるようにして聖霊を受けなさい。それにはミサにたくさん与ることが一番ですよ」と教えていただきました。そしてミサの中で、神の恵みの目に見える形である秘跡が少しずつ分かるようになりました。

- ・イエスが人びとに信仰によるいやしや奇跡を見せてくださいましたように、私も同じいやしをいただきました。そのあと、友人たちの目には、私がふたたびなぜあんなに元気になったのだろうと不思議に映っていたようです。これこそ神が私を捉えておそらく大きな翼の中で守っていてくださったのだと思いました。これは私にとってとても大きな福音なりました。また友人たちへも神の愛と力を知ってもらうことができ、よい証しになりました。いま私は、聖霊の助けによってこの喜びをたくさんの人と分かち合って生きていきたいと望んでいます。

- ・先日、あるアジア・アフリカの人たち集まりに参加する機会がありました。そのとき何度も、彼らが自己紹介するときに、「私はクリスチャンです」と言うのを聞きました。これを聞いて、この小さな言葉からもその人たちの喜びが伝わってくるのを実感しました。

- ・この歳になるとできることは少なくなります。しかし小さなことはまだまだ出来ますし、またしていきたいと考えています。ですから帰天した夫や恩人の方々がこの世でやり残していくことがあれば、それを見つけてそこへ小さな編み目をひとつかぎ針で付け足し、つなぐことぐらいは私にも出来るかもしれないと思っています。

- ・「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ロマ 12・15）というパウロ言葉をこれまでずっと大切に思ってきましたが、いまはもっとこの言葉を大事にしていこうと思っています。なぜなら教会は、私が経験したように、共に喜び、共に泣いてくれる素晴らしい仲間の集まりだからです。あらためて感謝しています。

3. 参加者全員による分かち合い

3-1：3つの分かち合いのルール

- ・グループでの分かち合いに先立って、分かち合いの3つのルールの説明がありました：①分かち合いの内容はこの会場だけのものとする、②意見の批判をしない、③話したくないときはパスしてもよい。

3-2：分かち合いとキーワードの発表

・34組のグループが「福音を生きる」というテーマに沿って分かち合いをしました。参加された方々は、求道者の方、受洗・堅信を受けて間もない方、幼児洗礼の方、改宗された方、旧聖堂で受洗された方などおられ、また性別で見ると女性の方の参加が多く、男性は2割ぐらいでした。そして年齢的にも20歳代から80歳代の方々までと幅広い年代からなる集まりとなりました。

・分かち合いの前はうまく出来るかどうか心配でしたが、時間が足りないぐらいの熱気に満ちた分かち合いになりました。お互いの差異を尊重し、同じ目線で福音について有意義な交わりがそれぞれのグループで出来たと思います。まさに聖霊の息吹のものとの分かち合いでした。

・分かち合いのあと各グループの代表からキーワードの発表がありました。大きく分けるとつぎの3つに要約できると思います。34組のキーワードは資料1として添付していますのでご参考ください。

1) 福音と私：

福音という言葉はすでに日本語となり、いろいろな場面で、良い知らせという意味で使われています。しかし私たちキリスト者にとって「福音」はいまだ難しい言葉だと思います。「福音」とは何か、イエスのメッセージは何かなどまだまだ未熟な私たちは理解を深めていかなければならぬと思います。

2) 神さま・イエス・キリストと私：

神の声を聞くこと。イエス・キリストの呼びかけに応えること。そしてこの呼びかけに従って生きること。しかし呼びかけられているのは何となく分かるけれども、私に何をさせたいのかまでよく分からない。

神の恵みを感じる、赦せる、自由に感じること。頂いたお恵みを喜ぶ、感謝、イエス・キリストのように愛情一杯。祈りの中で、声を聞く、賛美を通して神の祝福を知る～不思議な体験～。それぞれのミッションを聖霊に導かれながらイエス様の生き方にならって生きること。真実を求め見つけられたこと、自分の使命が見つかるかも知れない希望キリストの光のような“喜び”の人生。

3) 神さま・イエス・キリスト、他者と私のかかわり：

言葉よりも態度で示す。キリストの香りを漂わせる者として実社会で生きる。聖書の御言葉に生かされた生き方をする、自分がクリスチヤンであることを宣言する。心を開いて相手を受け入れる。家族に伝える～生活を通して。喜びを伝える、たとえば笑顔で。

損得無しに生きる。それぞれのミッションを聖靈に導かれながらイエス様の生き方にならって生きる。神が創造した地球を大切に、経済優先主義はよくない。交わりを生きる 24 時間 365 日、信徒。

4. 英神父の分かち合いについてのコメント

- ・素晴らしい分かち合いでした。出来れば半日でも 1 日でも続けてこの分かち合いをしたかったですね。いま発表のあったことを書いていけば一冊の本になるぐらいいろいろなことが出ていました。
- ・「福音を生きる」というテーマはそれぞれの個人にかかわるものなので全体的にまとめるのは難しいと思います。しかし一つあげるとすれば、それは「問いかけ」ではないかと思います。「福音を生きる」ことが何であるのか神に問いかけながら今を生きていくことです。信仰生活の長い方は自分の型をお持ちかも知れませんが、神に向かって自分を、自分と他者、自分と共同体について問いかけながら、あるいはみ旨を探していくということではないでしょうか。
- ・人間の思いではなく、神でありイエス・キリストが何を望まれているか 24 時間・365 日、問いかけながら神と共にいる生き方が大切だと思います。実際一番難しいのは近くの人を愛することでしょう。特に家族に福音をどう伝えるのかは、ほんとうに難しい問題です。もちろん態度と実践が大切になりますが言葉も重要です。講義ではありませんから、会話をしながら、相手を受け入れ、理解しながらお互いに分かち合っていく必要があります。分かち合いのときに出たイエス・キリストの香りを感じてもらうことも大事です。
- ・前回と違って、今回はイエスとかイエス・キリストという言葉が何回かグループ発表のときに出できました。イエス・キリストのどこが、あるいは福音書のどこが自分の心に強く響いたのかよく識別しなければなりません。イエス・キリストの何処に惹かれたかは人によってそれぞれ違います。例えばアシジのフランシスコはすべてを捨ててイエスに従いました。マザーテレサは貧しい人の中で最も貧しい人びとに最後まで寄り添っていました。イグナチオはザビエルと共に地の果てまですべての人びとへキリストを伝えることが神の呼びかけと理解していました。
- ・私のイエスを見つけることです。その中でも十字架の恵みと神秘を生きていくことが大切です。苦しみを乗り越える喜び、感謝の気持ちを持ちもって、心を開き、ゆだね、人びとと共に家庭で、職場や地域そして教会で共に歩んでいくことです。この中には困っている人からの呼びかけもあるでしょう。そしてこれらの呼びかけに応えていくことからすべてが始まっていくと思います。発表の中にあった神の創造された自然や地球を大切にすること

とも大切です。ついつい身近な呼びかけに集中しがちですが、このように大きなビジョンを持つことから福音の種を育てていくことも出来ると思います。

・最後に今日から数ヶ月福音とは何か、イエスの呼びかけを探し、心に響いたことを実践し福音を意識しながら生きて見てはいかがでしょうか。8月、9月、10月の課題として次の提案をできればやってみてください：

1) 実際に福音を生きてみる工夫をする。あるいは実際に福音を伝える工夫をしてみる。

① 福音を生きる工夫をしてみてください。

・自分はどういうことを意識して生活したいと思いますか。

② 実際にやってみてから、福音を生きる喜びをどこで感じましたか。

・福音を生きる難しさをどこで感じたでしょうか。

③ 実際に福音を伝える工夫をしてみてください。

・どういうことをしてみようと思いますか。

④ 実際に福音を伝えることがうまくいったのはどのような体験でしょうか。

・成功体験を皆で持ち寄りたいと思います。

2) 福音に関する読書をして、自分の生活をふりかえり、少しでも実践してみる。

参考図書：

・教皇フランシスコ『使徒的勧告 福音の喜び』カトリック中央協議会

・教皇パウロ6世『福音宣教』ペトロ文庫

・キャサリン・ドウ・ヒュック・ドウハーティ『福音を生きぬく』教友社

⑤ 本を読んでみて、どこに一番感動したでしょうか。

・実際に自分が心がけたいと思うのはどういう点でしょうか。

⑥ それを実践してみて、気づいたことがあるでしょうか。

・福音を生き、福音を伝えるために、自分にとって一番重要なことは何でしょうか。

5. お知らせ

次回のワークショップは11月4日（日）午後3時からです。開始日時が変わりましたのでご注意ください。なおこの間少し間が空きますのでミニワークショップを9月2日（日）ヨセフホールで13時から15時まで、上記のポイント1)について行います。ご都合の良い方はご参加してください。

以上

文責：英神父とミッション2030促進チーム

7月1日ワークショップ

『福音を生きる』－「キーワードリスト」

1. 「呼びかけにしたがって生きる。」
2. 「『福音』って何か、いまだ。歳と共に？」
3. 「イグナチオへ導かれ、使徒としての自覚を日々深めていきます（セミナー、学びを通しながら）。」
4. 「神の愛に気づかされ、ゆだね、喜んで生きる。」
5. 「喜びを伝える（例えば笑顔とか）。」
6. 「ミサに与り、日常生活を懸命に前向きに生きる。」
7. 「①イエス様の生き方に倣い、イエス様の愛を実行する。行いの伴わない信仰は無意味である。愛を実行する。②神さまのみ旨を自分の想いではなく、純心を（祈りの中で願い求める、祈りは神様との対話）を行う。③愛の実践。」
8. 「キリストの香りを漂わせる者として実社会で生きる。」
9. 「聖靈に導かれて教会に来ました。家庭に、廻りに神様を伝えていきたい。」
10. 「愛徳。互いに愛し合う。多様性を受け入れる。キリスト教徒をふやしたい。」
11. 「心を開いて相手を受け入れる。」
12. 「神様の望む姿にして下さい。呼ばれているのは、何となくわかるけど。何をさせたいのでしょうか… が、まだ良くわかりません。」
13. 「わかり合う。」
14. 「神様とのかかわり方。」
15. 「福音はキリストの香り（を通して）に生きる。」
16. 「まこと。よい心。」
17. 「言葉よりも態度で示す！」
18. 「神との対話＝愛（いろいろな場面 家族、社会）＝積極的にコミュニケーション」
19. 「十字架の恵みを伝えること（苦境の中で見上げたとき/見上げるとき気づかされるキリストのみことばと声）（苦しみの中でこそその平安・喜び、顔が輝いているという事実！に互いに気づきあって…。）」
20. 「聖書の御言葉に生かされた生き方をする、自分がクリスチヤンであることを宣言する。例えば加藤一二三さん、フジコ・ヘミングさん。」
21. 「神の恵みを感じる、赦せる、自由に感じること（神の導きに心、目を開き）、我欲/エゴを捨てることに近づける、イエス、神に近づけること（自由を感じながら）。」
22. 「家族に伝える～生活を通して～。」
23. 「イエスと共に生きる、イエスの御心に倣っていきる。」
24. 「頂いたお恵みを喜ぶ、感謝、イエス様のように愛情一杯。」

25. 「祈りの中で、声を聞く、賛美を通して神の祝福を知る～不思議な体験～
(苦しみから救っていただいた経験より)。」
26. 「損得なしに生きる。」
27. 「それぞれのミッションを聖霊に導かれながらイエス様の生き方にならって
生きること。」
28. 「真実を求め見つけられたこと、自分の使命が見つかるかも知れない希望、
キリストの光のような“喜び”の人生。」
29. 「人が計画したとおりに物事はいかない、人間の思いではなく、神の御心に
したがう。」
30. 「神が創造された地球を大切にしましょう～経済優先主義はよくないー。」
31. 「交わりを生きる、24時間365日、信徒。」
32. 「これでいいのだ。」
33. 「神を身近なものとする、感じる。」
34. 「(神様のもとに必ず行ける喜び)、常に会話しながら共にいて下さる存在。」

以上